



農林中央金庫グループの 活動状況

当金庫グループでは、さまざまな取組みを通じて、
より良い環境・住みやすい地域・
豊かな社会づくりに貢献しています。

農林中央金庫のCSR取組方針

日本の農林水産業のために。私たちの活動は、会員とともにあります。

農林中央金庫の基本的使命

農林水産業協同組織の中央機関としての機能発揮に努めます。

当金庫は、1923年(大正12年)に「産業組合中央金庫」として設立され、1943年(昭和18年)に名称を「農林中央金庫」に改めました。現在は「農林中央金庫法」を根拠法とし、各地域の協同組合と都道府県段階の連合会(JA信農連、JF信漁連、県森連など)を会員(出資団体)とする協同組織の中央機関として活動しております。農林中央金庫法第一条の「目的」には、「会員に金融の円滑化を図ることにより農林水産業の発展に寄与し、国民経済の発展に資すること」が基本的な使命として定められています。

この使命を果たすため、当金庫は、JA・JFが組合員利用者のみならずからお預かりした貯金を原資とする会員からの預金などにより調達した資金をもとに、会員、農林水産業者、農林水産業に関連する企業、および地方公共団体などへの貸出を行っています。

また、会員が保有する資金の最終的な運用の担い手として、国内外で多様な投融資を行い、資金の効率的運用を図り、会員への安定的な収益還元を努めております。

さらに、信用事業(金融事業)を営む全国のJA・JFの事業企画、健全経営の維持、国内有数の規模である共通業務システムの運営等に関しては、都道府県および全国段階の連合会と連携し、「JAバンク」「JFマリンバンク」の名のもとで一体的な運営を行っています。

農林中央金庫のCSR取組方針

農林水産業のフィールドで、会員とともに現場の声に答えながら、業務全般を通じて、その振興や地域社会・環境への貢献に取り組んでまいります。

当金庫は、農林水産業の協同組織を基盤とする金融機関として、またグローバルな投融資活動を行う金融機関として、多様なステークホルダーの信頼を得て、経済・

社会の持続的な発展に貢献していくことをCSRの基本としています。取組みにあたっては、「法令等遵守の徹底など強固な内部管理態勢」と「多様な人材が活躍できる人事施策」をすべての信頼の基盤とし、業務全般を通じて、①会員への貢献、②農林水産業振興への貢献、および、③社会への貢献、を3つの柱としております。

近年は、自然環境の保全、食品の安全性、そして地域経済・社会の活性化など、わが国が抱える重要なテーマについて、企業が果たすべき責任もさらに重みを増しています。

私たち協同組織は「相互扶助」と「共生」を基本理念に掲げ、農林水産業と地域をフィールドとし、その振興と発展を事業の目的としてまいりました。そこでは、従来から会員を中心として、農林水産業者や地域社会に対する多様かつきめ細かい事業や活動が展開されています。当金庫は、これをサポートするかたちで、「現場の声」に応えながら、会員と協調し、相互に連携した取組みを進めてまいります。

現在、当金庫は、平成28年度から平成30年度までの3年間を計画期間とする中期経営計画のもと、被災地復興に継続的に取り組むとともに、「農林水産業と食と地域の暮らしを支えるリーディングバンク」の実現を目指しております。会員との大切な絆、農林水産業との深いつながりを活かし、一次産業のお客様と二次・三次産業のお客様との架け橋となって、食・環境・地域社会に深く関わる農林水産業をしっかりと支えてまいります。

CSR活動の推進体制

ステークホルダーのみならずの期待にお応えするため、CSRを推進する体制の整備に努めています。

当金庫では、平成20年7月に理事会の下部機関としての「CSR委員会」、また、CSR活動全般を統括する機能を担う「CSR推進室」を設置するなど、体制の強化を

農林中央金庫のCSR概念図

【基本的使命の遂行による社会全体の持続的な発展への貢献】

基本的使命＝農林水産業の発展への寄与



図ってまいりました。

当金庫のCSR取組方針は、CSR委員会での協議を経て理事会で決定されます。その方針に基づき、個別の活動を所管する部署が会員等との調整を行い、CSR推進

室と連携しながら活動しています。

本報告書は、CSR推進室が中心となり作成・発行しております。今後とも情報発信の充実に努め、みなさまとのコミュニケーションの充実に努めてまいります。

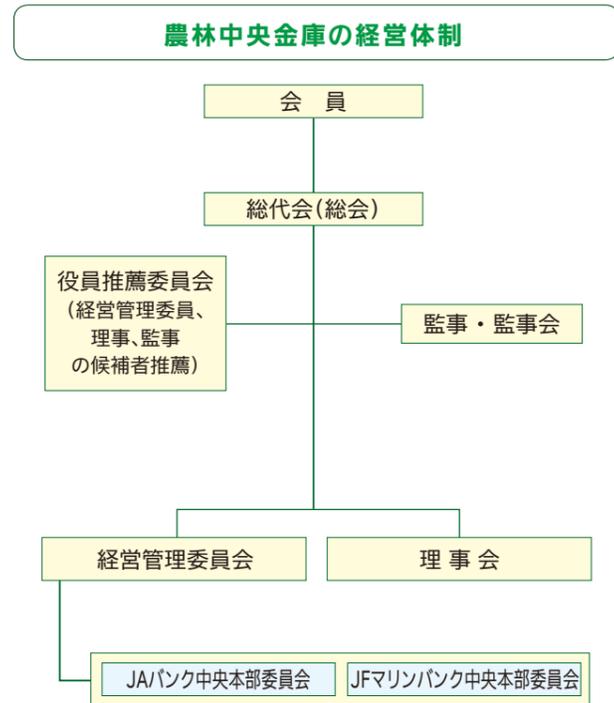
農林中央金庫の経営体制

社会に信頼される金融機関であり続けるために、経営管理態勢の強化に不断の取り組みを続けます。

経営体制（コーポレートガバナンス）

系統信用事業を支える基本的使命と国内有数の金融機関としての社会的責任を果たす基盤であるコーポレートガバナンスの強化に努めています。

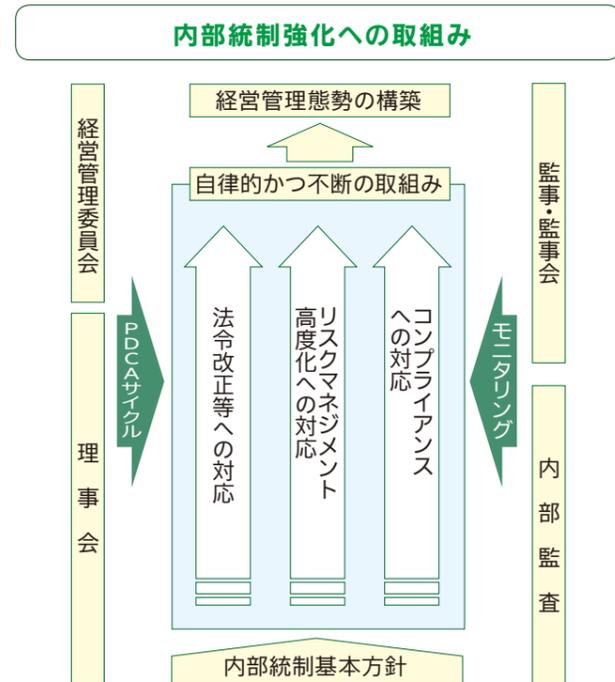
当金庫は、農林水産業者の協同組織の全国金融機関であると同時に、国内外での巨額な資金運用を通じて金融・資本市場に大きな影響を及ぼす機関投資家としての側面をあわせ有しています。これを受けて、当金庫の意思決定は、会員総会に代わって会員の代表者で構成される「総代会」の決定事項を遵守しつつ、農林中央金庫法に定められた「経営管理委員会」と「理事会」が協同組織の内外の諸情勢を踏まえ、分担・連携する体制としています。



内部統制強化

経営管理態勢の構築を経営の最重要課題と位置付け、内部統制強化に向けた不断の取り組みを続けています。

当金庫は、農林水産業者の協同組織を基盤とした金融機関としての基本的使命と社会的責任を果たしていくために、経営管理態勢の構築を経営の最重要課題と位置付けるとともに、企業倫理および法令などの遵守、適切なリスク管理その他業務執行の適正性を確保するための内部統制に関する基本方針を制定しています。

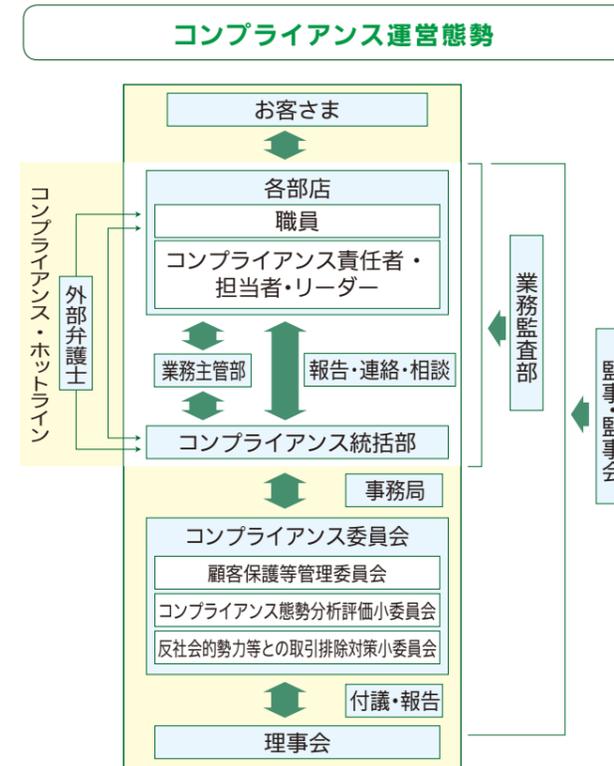


経営体制の詳しい情報は、2016年版ディスクロージャー誌をご参照ください。
http://www.nochubank.or.jp/ir/disclosure/pdf/discr_16.pdf

コンプライアンス

コンプライアンス態勢の整備と実効性向上を、重要な経営課題として不断の取り組みを続けています。

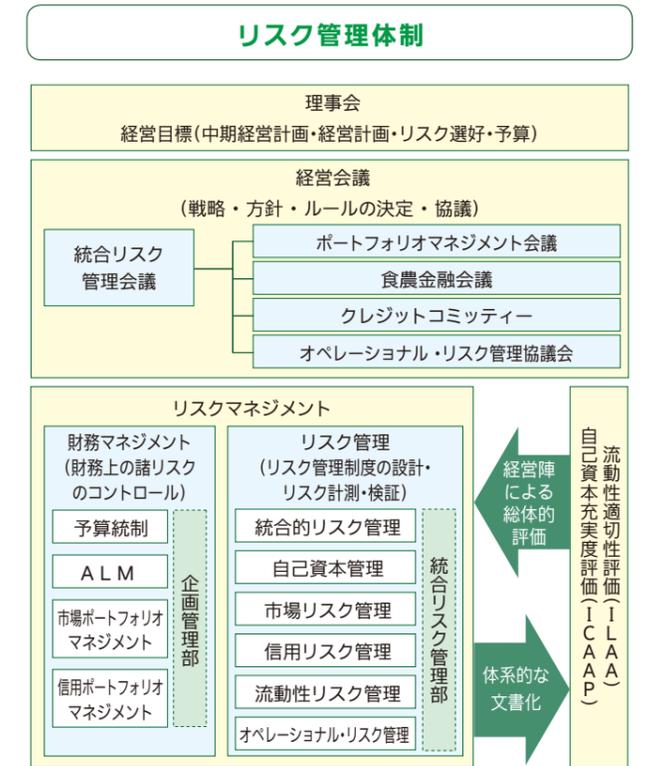
当金庫は、わが国金融システムの中核を担うグローバルな金融機関として、またJAバンク・JFマリンバンクの全国機関として、その基本的使命と社会的責任を果たし、社会情勢や経営環境の変化を踏まえ、お客さまや会員からの信頼に応えるために、徹底した自己責任原則のもとで法令遵守等社会的規範に則った業務運営を行うとともに、ディスクロージャー（情報公開）とアカウントビリティ（説明責任）を重視し透明性を確保するよう努めることにより、コンプライアンスへの不断の取り組みを積み重ねています。



リスク管理

農林漁業協同組織の全国金融機関として取り組む収益還元や機能発揮を支える安定した財務基盤を構築するため、リスク管理態勢の高度化に努めています。

当金庫は、認識すべきリスクの種類や管理のための体制・手法などのリスク管理の基本的な体系を定めた「リスクマネジメント基本方針」を制定し、業務を運営するなかで直面するリスクの重要性評価を行い、管理対象とするリスクを特定したうえで、各リスクの特性を踏まえた個別の管理を行うとともに、計量化手法を用いてこれらのリスクを総合的に把握し、経営体力と比較して管理する統合的リスク管理を行っています。



人づくり

人材交流の充実

JA・JA信農連ほか系統団体と当金庫での人材交流を充実させ、相互理解の促進とノウハウ共有化・人材育成に努めています。

JA → 農中

JAからのトレーニーの受入れ

JAにおける信用事業の中核を担う人材の育成を目的に、当金庫本支店においてJA職員トレーニーの受入れ(19名)を行っています。



JA新あきた
かとう みゆき
嘉藤 みゆき
(研修先：秋田支店)

年金トレーニーとして、日々有意義で貴重な経験をしています。帰任後はこちらで学んだことを最大限に活かし、自JAでの推進活動に役立てたい。



JAみやぎ登米
うえの あゆみ
上野 あゆみ
(研修先：仙台支店)

店舗事務指導について学んでいます。農林中金で教えていただいたことをしっかり身に付け、自JAで堅確な事務に努めたいと思います。



JA加美よつば
こまつ しろう
小松 史郎
(研修先：仙台支店)

農業法人の訪問活動、融資相談に同行し、農業融資のノウハウを学習しています。農林中金での経験を自JAで活かしていきます。



JA佐波伊勢崎
よこぼり けんいち
横堀 健一
(研修先：前橋支店)

農業法人への対応力を身に付け、経営の把握・指導・提案が実践できるレベルを目指して取り組んでいきたいと思っています。



JAいなば
ふじた りょうじ
藤田 亮二
(研修先：富山支店)

農業経営に係る各指標の分析および農業法人へのアプローチ手法等を学んでいます。修了後は、地域農業に金融面での貢献ができる人材になりたい。



JA岡山
かわさき しょうへい
川崎 翔平
(研修先：岡山支店)

研修中は、農業法人への訪問や農業融資の基礎知識を学んでいます。この経験を自JAに戻ってからの業務に活かしていきたいです。



JAみやぎ登米
さとう ふみこ
佐藤 文彦
(研修先：仙台支店)

県内JAや農業法人へ訪問し、推進方策等を学んでいます。JAグループの総合力発揮に貢献できるようトレーニーでの経験を活かしてまいります。



JAみやぎ仙南
はんざわ たかひろ
半澤 貴浩
(研修先：仙台支店)

農業融資の基礎知識、農業法人へのアプローチ法や県内JAの取組みについて学んでいます。自JAでも連携し、融資面で農業者をサポートできるよう励みたい。



JA福島さくら
すずき かずひで
鈴木 和秀
(研修先：福島支店)

期間中に農業法人アプローチ、農業経営分析などのスキルをしっかり学んでJAで実践していきたいと思っています。



JA熊本市
つしの ゆずる
辻野 譲
(研修先：熊本支店)

このトレーニー期間中にさまざまな経験を積み、人脈をつくり、今後JAグループの一員として地域・組合員のために大活躍します。



JA鹿本
なるみ しげき
鳴海 茂樹
(研修先：熊本支店)

トレーニー活動を通じて、貴重な経験をさせていただいております。今後のJAでの業務に活かせるよう、取り組んでいきます。



JA菊池
まえがわ ひろたか
前川 寛崇
(研修先：熊本支店)

農業融資に関する研修・訪問活動を通じて、農業資金の提案力や農林中金の取組みを学びたいと思います。



JAなすの
たかく やすあき
高久 康明
(研修先：宇都宮支店)

財務分析など経営相談機能を活用し、農林中金の職員と一緒に笑顔で同行訪問して農業法人から感謝されたい。



JA邑楽館林
あべ しゅういち
阿部 修一
(研修先：前橋支店)

現場に出向くなかで、農業法人の多様なニーズをくみ取り、取引提案につなげる力を身に付けていきたいと思っています。



JAにったみどり
たかぎ ゆうき
高木 祐貴
(研修先：前橋支店)

研修で得た知識・経験・人脈を自分の財産とし、地域農業の振興やJAバンク群馬の発展に役立てていきたい。



JA岡山
こいけ こういち
小池 康一
(研修先：JAバンク企画推進部)

農中信託銀行の遺言信託代理店業務に必要な知識や他JA代理店の取組みなどを通じて得た経験を自JAで共有し、推進業務に役立てたいと思います。

働きやすい職場環境に向けて

人権と多様性の尊重

当金庫は、「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」などを踏まえて、倫理憲章に定める人間尊重の考え方に基づく透明性の高い組織風土の構築に努めており、役職員に対してさまざまな人権問題に関する教育・啓発を継続的にを行っています。

この推進を図るため、人権教育推進協議会において人間尊重の考え方の定着のための諸施策を協議し、理事会において決定した方針に基づき、人事部人権班および各部店の人権担当者を中心にその諸施策を実行しています。

各部店では、さまざまな分野の人権に関する講師を招くなど、各種の研修会を実施しており、役職員の人権問題への正しい理解を促進して認識を深めています。また、セクシュアルハラスメントおよびパワーハラスメントの防止対応にあたっては、当金庫内の相談窓口担当者に加え、外部相談窓口を設置するなど、さまざまな取組みを実施しています。

このほか、JAグループの一員として全国農業協同組合中央会と連携し、当金庫グループ会社を含めた人権意識の向上を図り、多様性を尊重し、すべての役職員がいそいそと働ける職場づくりに取り組んでいます。

次世代育成支援・女性活躍推進の取組み

当金庫は、次世代育成支援対策推進法などを踏まえて、仕事と育児の両立支援やワークライフバランスの実現などに取り組んでおり、子育てサポート企業

(くるみん)の認定を受けています。また、女性の職業生活における活躍の推進に関する法律などを踏まえて、総合職の新卒採用者に占める女性割合や男性の育児休業取得率の向上などに取り組んでいます。



人づくり

人材交流
の充実

JA信農連・JA → 農中

JA信農連・JAからの出向者・トレーニーの受入れ

当金庫のさまざまな業務において、JA信農連・JAの職員が現場での実務経験を活かして活躍し、当金庫とノウハウの共有を進めています。

JAバンクのリテール企画業務

JAバンク中期戦略で掲げる生活メインバンク機能強化にかかる業務企画を担当しています。各県での経験を、全国のJAバンクで取り扱う貯金・ローン・年金・給与振込・JAカード等の商品・サービスや、CS改善活動・現場営業力強化策の全国企画に活かしています。



JAバンクに関する制度対応業務

JAバンクの業務にかかる法規制・会計制度対応全般と、JAバンク基本方針を担当しています。環境変化や規制・制度の変更に適切に対応していけるよう、情報を収集し、会員へ発信しています。



系統人材の育成・能力開発強化

JAバンク・JFマリンバンク・JForestグループでは、組合員・利用者みなさまの期待と信頼に応える人材の育成に取り組んでいます。

JAバンク・
JFマリンバンク
における専門性の
高い信用事業職員
の育成

JAバンク・JFマリンバンクでは、系統研修専門子会社の(株)農林中金アカデミーによる集合研修、通信教育・検定試験などを通じて、組合員・利用者のニーズに応えられる専門性の高い信用事業職員の育成に取り組んでいます。

平成27年度の農林中金アカデミー利用実績

集合研修受講者数	2,048人
通信教育受講者数	13,150人
検定試験受験者数	17,594人

JForest
グループへの
人材育成
サポート

当金庫においては、JForestグループに対するコンプライアンス研修への出講対応のほか、森林組合トップセミナーの開催や「森林組合参事研修」(平成27年度までの累計受講者数39県域75名)の実施を通じ、JForestグループの人材育成を支援しています。

農業融資・JAバンクアグリサポート事業の企画業務

JAバンクが掲げる「農業メインバンク機能の強化」に向け、全国のJAバンクで取り扱う農業融資商品や、地域農業の担い手への訪問・融資に関する相談対応、JAバンクアグリサポート事業の企画などを担当しています。

また、当金庫自身の農業融資業務を直接担当し、ノウハウの共有も行っています。



法人融資業務

当金庫本・支店で行う法人融資を担当しています。

JA信農連・JAで培われた経験をもとに、当金庫のフィールドで融資業務に携わることにより、ノウハウの共有と蓄積を進めています。



JAバンクの事務・システムにかかる運営・管理業務

JAバンクの全国統一事務手続およびJASTEMシステムの管理やユーザーのサポートを担当しています。JA信農連・JAで培った現場での実務経験を活かし、JAバンク全体としてのサービスの向上を支えています。



有価証券運用業務(トレーニー制度)

当金庫では、JA信農連を中心とした人材育成の一環として、有価証券運用に関する研修制度を運営しています。研修は、当金庫グループ内およびみずほ証券株式会社とも連携し、講義や模擬デール、ポートフォリオ分析などを行う実践的な内容となっています。

昭和60年の制度創設以来、これまでに迎えた研修生は600名を超えています。



人づくり

人材交流
の充実

農中 → JA・JA信農連・県中央会

JA・JA信農連・県中央会への出向

当金庫の基盤である系統信用事業の現場を肌で感じ、協同組織中央機関職員としての自覚を一層高めることを目的に、JA・JA信農連・県中央会の協力を得て当金庫職員が出向しています。



JAが将来も選ばれ続けるために、現場のみなさまと一緒に汗をかきながら、一つひとつ課題に取り組んでいます。

北海道の農業に触れることができ、大変良い経験となりました。この経験を活かし、現場感覚を持って仕事をしたいです。

地域の担い手の「農業所得増大」に貢献すべく、JA・信農連のみなさまと力を合わせ、日々の業務に取り組んでいます。

JAと地域の密接なつながりが、より広い社会に可視化されて伝わるように、現場で「JAらしさ」を追求し続けていきます。

JAバンクの事業量拡大を目指し、JAと意思疎通を図りつつ、JAによる円滑な事業推進の実現に向けて日々取り組んでいます。

農業金融におけるJAのプレゼンスを発揮させる難しさを日々感じています。

お客さまに選ばれる金融機関になるため、地域を駆け回り、汗を流す毎日です。

地域に根差したナンバーワン金融機関を目指して、日々取り組んでいます。

JAの現場で、信用事業の伸長に向けて、どのように取り組めば良いのかを、日々学ばせていただいております。

JAバンクが地域になくてはならない存在になるために、JA・信農連の方々とともに頑張ります。

地域のみなさまの期待に応えるために何ができるのかを考えながら、日々の業務に取り組んでいます。毎日が新たな学びの連続です。

人材育成

経営環境の変化に柔軟に対応するチャレンジ精神に溢れた中核人材の育成を目指し、職員一人ひとりの自主的な取り組みを支援しています。

当金庫は、人材育成にも力を入れています。業務目標の設定や成果の検証、仕事上で発揮された能力の振り返りを通じて、職員の能力開発に対する意識・取り組みの向上を図り、豊富な研修メニューでサポートを行っています。うち、新入職員には、全国各地のJAで、約2週間のJA現地研修を実施し、「現場からの学習」を促しています。

さらに、系統団体などから有識者を招聘した研修会を行うとともに、若手・中堅職員を中心にJA・JA信農連ほか系統団体と恒常的に人材交流を行っています。

主な人材育成プログラム

集合研修

- キャリア開発研修：能力の棚卸・自己分析を通じてキャリア開発意識を醸成
- 管理職研修：リーダーシップ、部下育成、ビジョンメイキング、効率的な業務処理などのマネジメントに必要な知識の習得・向上
- 経営職育成研修：組織経営、部店マネジメントなどに必要な知識の習得・向上
- 金庫ビジネススクール：企業経営にかかる基礎理論の理解とコンサルティング能力の向上・定着、組織横断的なネットワークの構築

自己啓発支援

- 通信研修、外部資格取得、外国語学校通学助成制度：職員の自律的なキャリア開発の支援として、各種取り組みにかかる費用の一部を助成

外部派遣

- 経営大学院（経営者コース）：国内外大学院における経営能力の高度化

- 海外留学：MBAやLL.Mなどへの派遣を通じた専門知識の習得、国際感覚の養成
- 海外支店トレーニー制度：海外支店への若手職員派遣を通じた国際感覚の養成
- 異業種交流型研修、運用会社、JA・JA信農連等への派遣・出向を通じた人材交流、専門知識の習得

新人教育

- 新入職員職場教育制度、指導係研修、メンター制度
- 受入研修、JA現地研修

その他

- 業後研修
- 系統有識者などによる講演を通じた系統組織の一員としての意識醸成
- ビジネス英会話レッスン
- eラーニング

JA現地研修（研修先：JA相模原市に学ぶ）

JA相模原市（神奈川県） 現地研修全日程

日付	研修先	研修内容
1	本店	開会式、オリエンテーション、各研修先訪問
2・3	営農センター	営農支援活動体験（播種作業、畑の管理）
4	支店	渉外担当者同行（貯金、共済推進）
5	支店	盆踊り大会設営
6	パシフィコ横浜	優績者表彰式見学
7	営農センター	パレイショ収穫
8	直売所	直売所実習（接客、陳列）
9・10	支店	渉外担当者同行（貯金、共済推進）
11	本店	研修報告、閉講式

JA研修全日程を終えた感想

JA相模原市の現地研修では、複数の支店研修や直接組合員の方と触れ合える地域行事への参加を通じ、地域に密着したJAの現場を肌で感じるという貴重な機会に恵まれました。

農業実習では、畑の管理を兼ねたジャガイモの収穫や、地元の農家の方に出荷する苗の育成といった営農支援に関する業務を体験しました。炎天下での作業は想像していた以上につらく、農業から収入を得る大変さ、その収入をもととした資金の尊さについて身をもって学ぶことができました。また、直売所実習では地域の農作物の販路を広げる取り組みにも触れることができ、JAが農家の方々の苦勞に報いるようさまざまなサポート体制を整備していることが実感できました。

本研修では、地域の盆踊りの企画実行などを通じ、相模原市のような都市部においてもJAが地域社会の重要な担い手となっている姿を垣間見ることができました。それはひとえに、組合員の方々のさまざまなニーズに応えるべくこれまでJAが努力を重ねてきたからこそだと強く感じています。JAが今後も日本の農林水産業の現場、地域社会のなかでかけがえのない存在であり続けられるよう、微力ながら系統組織の一員として日々精進し、真摯に業務に取り組みたいと思います。



農中信託銀行
むらしまよしのり
村島 吉宣

農林中央金庫グループの社会・環境貢献活動

主な社会・環境貢献活動実績 (平成27年度)

地域・社会貢献活動

花いっぱい運動

- 花の種・球根の寄贈 (地方公共団体、各種学校、社会福祉協議会等へ)
- 各地の緑化推進活動に協賛
- 植栽等のイベントに参加

環境美化活動

- 清掃ボランティア活動に参加
- 環境美化団体・イベントへの寄付 (富士山、大阪御堂筋、長崎市など)

地域振興の支援

- 地方公共団体やJA・JF・JForestグループの地域振興活動に協賛 (各地域の祭り、おきなわ花と食のフェスティバルなど)

社会福祉活動

- 職員有志による募金協力 (NHK歳末たすけあい・海外たすけあい、日本赤十字社、赤い羽根共同募金、漁船海難遺児育英資金年末募金、緑の募金ほか)
- 防犯・交通安全活動に協力 (ランドセルカバーの寄贈 (青森)、安心安全イチゼロ運動への参加 (仙台)、防犯ブザー寄贈キャンペーンへの参加 (高知))
- 献血呼びかけキャンペーンに参加 (新潟)

海外での取り組み

- 「農林中金基金」による寄付 (ニューヨーク)
- 和食紹介イベントへの協賛 (ロンドン)
- 建国50周年記念事業への寄付 (シンガポール)
- The Community Chest of Hong Kongへの寄付 (香港)



寄贈した球根が開花 (青森支店)



清掃活動 (那覇支店)

環境・自然保護活動

地球温暖化防止、生物多様性保全活動への協力

- 国産間伐材の利用促進 (木製品の寄贈等)
- 木育
- 日本野鳥の会への協賛
- 漁業者の森づくり活動への参加

環境負荷低減に向けた取り組み

- 省エネルギー対策
- ペーパーレス化、資源リサイクルの推進
- グリーン購入法適合商品の購入
- 持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則 (21世紀金融行動原則) の遵守



木製品の寄贈 (関東業務部)



木育活動 (福岡支店)



ビジュアルフリーマガジン『Toriino』(日本野鳥の会)

教育・研究支援活動

大学寄付講座

- 東京大学、早稲田大学、慶應義塾大学、東京理科大学、一橋大学、京都大学、北海道大学



大学寄付講座での活動の成果が書籍化。慶應義塾大学『農業・農村で幸せになろうよ』

地域・社会貢献活動

花いっぱい運動

札幌支店の取り組み

札幌支店では、札幌市が策定している「札幌市 みどりの基本計画」に賛同し、自然と調和した都市環境を将来にわたって守り続ける活動の一環として、一時的な中断はあったものの昭和63年から再開し、大通公園内に設置されている花壇の造成活動を行っています。

造成した花壇内の花や苗は、毎年4回程度の植え替えを実施しており、春には地元の生産者が生産した約2,000株のパンジーを植え付けています。実際の造成作業にあたっては、支店取引先の種苗会社から植え込み指導を受けるなど、支店



植栽風景

2,000株のパンジーを植え付けています。実際の造成作業にあたっては、支店取引先の種苗会社から植え込み指導を受けるなど、支店

と関係団体が連携して取り組んでいます。

平成27年度は前年度に引き続き、北海道信用農業協同組合連合会、北海道信用漁業協同組合連合会のみなさまに加え、北海道森林組合連合会のみなさまにもご参加いただき、「農」「林」「水」すべての系統組織が揃って花壇の造成を行いました。当日は晴天にも恵まれ、夏の日差しを浴びながら、参加者が一体となって作業に取り組みました。



花壇の造成に参加したみなさん

海外での取り組み

シンガポール支店

当支店では、慈善団体への寄付を通じた地域貢献活動や各種自然保護活動に取り組んでいます。2015年は、シンガポール建国50周年を記念したチャリティーイベントを通して寄付を行いました。当金庫の看板付きクリスマスツリーが11月20日よりクリスマスまでの期間、



当金庫の看板付きクリスマスツリー

観光名所として知られるマリナベイ沿いの歩道に設置され、その広告費は、この国で貧困に苦しむ子どもや若者、障がいのある方々などへの支援のために使われます。ツリー設置日の11月20日には点灯式が開催され、支店職員も見守るなか、綺麗に明かりが灯されました。

自然保護活動としては、9月5日に、「川」をテーマにした当地の動物園「リバーサファリ」に、アリゲーターガーの飼育にかかる費用1年分を寄付しました。アリゲーターガーは世界最大級の淡水魚として知られていますが、生息環境の悪化や乱獲により個体数が減少し、現在その生息域の各地で法律により保護されています。寄付活動には支店職員とその家族50人以上が参加し、野生動物保護について考える良い機会となりました。

当支店では、今後もさまざまな活動を通じ、地域への貢献や自然保護に取り組んでいきたいと思えます。



動物園「リバーサファリ」への寄付

環境貢献活動

環境金融の取組み

平成27年度の取組み

地球温暖化等の環境問題への関心の高まりを背景に、金融界においても環境に配慮した事業活動を金融面からサポートする取組みが広がっており、こうした動きを踏まえて、当金庫も環境金融の取組みを行っています。

平成22年から、環境分野に配慮した取組みを実践しているお客さまを評価する「農林水産環境格付制度」を導入しています。本制度の評価対象項目には、環境保全型の農林水産業への取組み、6次産業化への取組み等、当金庫独自の評価項目を取り入れています。

平成24年3月には、オフセット・クレジット(J-VER)の媒介業務を開始しました。J-VERは、国が運営する国内排出権取引制度で、農林水産業由来のJ-VERの売買取引を媒介することで、森林整備等の環境配慮型農林業への取組みや企業等の環境対策をサポートすることを目指しています。

平成27年度は、当金庫が協賛するイベントにて、森林組合系統が組成したJ-VERを活用したカーボン・オフセットを実施しました。

カーボン・オフセット実施イベント	温室効果ガス削減量	J-VER組成者
平成27年11月14日～15日 第6回ファーマーズ&キッズフェスタ2015	計10t	ひがしらかわむら 東白川村森林組合(岐阜県)、 かしも 加子母森林組合(岐阜県)



J-VERの仕組み

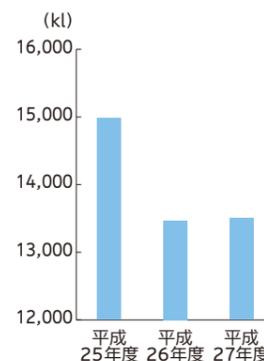
地球温暖化対策に向けた取組み

省エネルギー・省資源への取組み

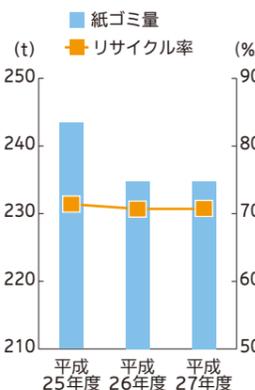
当金庫は、省エネ法改正を機に、エネルギー管理体制を新たに構築して、全社的なエネルギー使用量の「見える化」を実現。設備更新時の省エネルギー化、クールビズの徹底等の地球温暖化対策を継続しています。平成28年度より開始された「事業者クラス分け評価制度」(資源エネルギー庁)では「Sクラス(省エネが優良な事業者)」になりました。また、ペーパーレス化等の省資源化にも継続して取り組んでいます。

今後も、省エネ法や各都道府県の条例等に適切に対応するほか、夏・冬における節電への取組みも継続していきます。

エネルギー使用量(原油換算)の推移



紙ゴミ量とリサイクル率(本店DNビル)



教育・研究支援活動

大学への寄付講座開設

大学と連携し、学生たちの教育や研究を支援

当金庫は、農林水産業や金融・投資に関する教育・研究活動に寄与するため、平成20年度より寄付講座の設置に取り組み、国内7大学で開設しています。

寄付講座には、当金庫およびグループの役職員も出講し、次世代を担う若者に対して、当金庫およびグループで蓄積した実務知識・ノウハウを提供しています。

大学名	設置科目	備考
早稲田大学(オープン教育センター)	農山村体験実習 食と経済、協同組合論(隔年)	(株)農林中金総合研究所との共同設置。
東京大学経済学部	証券投資:理論と実践	
東京理科大学工学部	金融工学 I・II	農中情報システム(株)との共同設置。
慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科	アグリゼミ	
一橋大学経済学部	自然資源経済論	(株)農林中金総合研究所が運営に協力。
京都大学大学院 農学研究科・農学部	次世代を担う農企業戦略論	
北海道大学大学院農学研究院	アジア農業協同組合論	

※平成26年度から、京都大学大学院経済学研究科・経済学部において、農林中金バリューインベストメンツ(株)が寄付講座を設置。

北海道大学大学院農学研究院「協同組合のレーゾンドートル研究室」

教授 坂下 明彦様(特任准教授) 正木 卓様(特任助教) 高 慧琛様

北海道大学大学院農学研究院には、全国唯一の協同組合学を専門とする「協同組合研究室」が設置されており、農協の基盤である地域農業の分析、農協事業展開のあり方、協同組合の次世代の担い手に関する研究を進めています。この研究・教育をさらに高度化、活性化するために、平成28年1月に農林中金寄付講座「協同組合のレーゾンドートル研究室」を新設しました。

本研究室は、①協同組合と農業振興、②協同組合と食・生活に関する研究、③協同組合と農村開発の3つの柱を中心に活動しており、大学院教育として「アジア農業協同組合論」を開講し、市民向けの公開講座「協同組合のレーゾンドートル」も開催予定であります。これら3つの柱を中心に、協同組合の農業・農村振興に果たす意義や機能、消費者との協同組合を通じた連携について研究・教育し、北海道の生産現場から協同組合の存在意義について情報発信しています。



学生の農家泊まり込み研修・農協インターンシップ(栗山町)



寄付講座:証券投資:理論と実践(東京大学)



寄付講座:市民公開シンポジウム(一橋大学)



寄付講座:農山村体験実習(早稲田大学)



当金庫寄付講座での活動の成果が書籍化され、広く社会に発信しています。京都大学『進化する「農企業」』